

## 1. 令和7年度からの本格実施に向けた体制整備 (支え愛・ほっとステーションとの協働)

各支え愛・ほっとステーションのコーディネーターを2名から3名へ増員し、これまで主に65歳以上を対象としていた相談対応を全世代へ展開する他、これまで支え愛・ほっとステーションが地域と構築してきた関係性を活かした、効果的な重層的支援体制整備事業の実施体制を整備する。

Point! これまでつながっていなかった区民との関係性づくりを推進

目的:必要な支援が届いていない人へ、必要な支援を届ける  
内容:本人との、信頼関係構築やつながりづくりへの時間をかけた貼り強い取組み  
アウトリーチが必要な対象者を見つけるためのネットワーク・つながりの構築、情報収集

必要な支援が届いていない人についての情報収集

情報収集から、必要な支援が届いていない人を見つける

情報収集に基づいたアプローチ  
信頼関係構築 支援へつなぐ

支援が必要なものの支援が届いていない人に適切な支援を届けるため、時間をかけた丁寧な情報収集とアプローチを行う。

Point! 課題の振り起こしや困りごとの解決だけではなく、楽しさ、面白うさといった興味・関心にも着目し、地域のつながりをさらに強化

目的:世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備  
地域でのネットワーク構築

内容:高齢者を中心としたつながり(よりみち・新たな居場所等)の創出  
地域支援員・利用者を増やす  
地域に飛び出しても人や団体等とフラットな関係を構築し、情報収集、コーディネート実施

高齢者を中心としたつながりの創出  
高齢者を中心としたつながりの創出  
地域支援員・利用者増  
地域でのネットワーク構築  
地域でのネットワーク構築

### 主な取組み ②

#### ●地域づくり

高齢者を中心としたつながりの創出のため、学校や支援団体等との協働を推進。

支える側、支えられる側といった関係性を超えたつながりづくりを目的とした多様な「いばしょ」づくりを行う。

## 2. 支援会議

所管課、民間支援団体、町会等の関係者が集まり、複雑化・複合化した課題を抱えた区民やその世帯の現状や抱えている課題を整理し、必要な支援と役割分担を行う。

支援者を一人にしないため、それぞれの強みを生かしつつ、地域全体としての支援につなげる。

## 3. 周知

10月～12月にかけて係長以下職員向けと管理職向けに分けて4回の研修を実施。令和7年5月を目途に、民間も含めた説明会・研修を実施予定。

## 1. 実態把握(官学協働)

区民、特に若年層の孤独・孤立の実態を把握するため、区内大学(都立産業技術大学院大学)との協働によりアンケートによる実態調査を実施  
(対象)区内大学生、CSR企業社員、区職員 (回答)512人

状態	割合
孤独	32.6%
非孤独	67.4%

状態	割合
孤立	19.9%
非孤立	80.1%

きっかけ	件数
病気	45
友人関係	75
家族の不仲	35
友人との離別・死別	25
家族との離別・死別	35
一人暮らし	65
上京・転居	40
就職・転職・退職	40
結婚・出産・育児	30

状態	割合
孤独	43.9%
非孤独	56.1%

状態	割合
孤独	29.7%
非孤独	70.3%

## 2. 体制整備(官民協働)

役所や多くの相談窓口が閉まる夜間や休日を含め、いつでも相談できる体制を整備するため、24時間365日誰でも無料・匿名で利用できるチャット相談を実施しているNPO法人との協定を締結。

つながれた相談のうち、地域での支援が必要なケースについては、福祉計画課につながれ、支え愛・ほっとステーションとの協働により、適切な支援や重層的支援体制整備事業の(重層的)支援会議につなぎ、地域での支援を実施する。

## 3. 周知

既存の手法では情報を届けられていない層にも情報を届けるため、Google・インスタグラムでの支援情報広告配信を実施した。想定していたクリック率を大幅に上回る結果となり、広告から相談につながったケースも多かった。

11月には普及啓発イベントを開催。内閣府参与による講演やパネルディスカッションを声優による朗読劇により進行し、区の支援情報等に興味を持っていない層への普及啓発を図った。

子ども・若者応援フリースペースを利用する当事者にも実行委員会参加を呼びかけ、当事者の社会参加の機会ともなった。